

平成18年度 教師海外研修（派遣国：マレーシア）実践報告書

- 1 タイトル 見えない油「パームオイル」とマレーシアの現状
 2 氏名 菰口 修（こもぐち おさむ）
 学校名 大阪府立 泉北高等学校 担当教科 国語
 3 実施教科 国語（現国） 時間数 2時間
 4 対象生徒学年 1年生 総合科学科3クラス 対象人数 120人
 5. カリキュラム案

（1）実践の目的

環境問題を取り上げても、なかなか生徒は自分たちの問題として考えようとしなない。あくまで「国語の教材」でしかない。夏休み明けに集めた宿題レポート（地球環境問題について）を見ると、予想通り環境問題を自分の外の問題としてしか捉えていない生徒が多かった。9月の、環境問題に関する最初の授業で、さだまさしの「前夜（桃花鳥）」という曲を聞かせ、社会の諸問題に関する現代人の無関心さに警鐘を鳴らした上で、国語の教科書に出てきた地球環境問題が、どこか遠い国の問題ではなく、まさに日本の問題、自分の身近な問題であることを認識させようと考えた。また、テレビCMなど、五感に訴えて我々の中に入ってくる様々な情報をそのまま受け取るのではなく、冷静に見つめる目を持ち、見えない部分にどのような問題が隠されているか、マレーシアのアブラヤシプランテーションを例にして考えさせようと思った。

（2）授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限 テーマ 見えない油・パームオイルの長所 ねらい 2005年度生産量 世界一のパーム油が、日本でどれだけ身近なものかを知る	(1) 油クイズ ①知っている食用植物油を書かせる ②日本での供給量の多いものを当てさせる (2) 見えない油「パーム油」の説明 (3) 洗剤のCMを流しその印象を書かせる	・洗剤の30秒CM ・現地で撮った写真（パワーポイントを使って教材を作った） ・油に関する各種データ ・パーム油に関するビデオ
2時限 テーマ 見えない油・パームオイルの問題点 ねらい パーム油のかかえる問題点の把握と、CMなどで我々の印象が簡単に操作されることへの反省	(1) 洗剤のCMにクレームが付いた話 (2) 原産地における環境・社会問題 ・原生林不法伐採と生物多様性の減少 ・劣悪な労働条件と先住民との軋轢 (3) 洗剤CM第2弾の話 (4) 生徒に望むこと	・洗剤の30秒CM ・同じ商品の新しいCM ・現地で撮った写真（パワーポイントを使って教材を作った） ・アブラヤシプランテーションに関するビデオ

※ なお、上記以外に1年生国際文化科生徒（4クラス：160人）に対して、古典の授業の際に、「世界を知り、日本を考える」という、別の内容の授業を実施した。（マレーシアの多文化共生の話、イスラム教の話、日本と同じところ・異なるところの話 など。）

6 授業の詳細

(前段階)

- 1 7月の考査終了後、評論「地球温暖化問題を考える（大修館書店：国語総合）」を読み始めた。クラスを8班に分け、夏休みの宿題として、「酸性雨・砂漠化・オゾン層破壊・ゴミ問題」など、教科書に載っている8つの問題について、インターネットや図書館で調べて各自レポートを提出するよう指示。
- 2 8月下旬から3時間程度、各班で環境問題についてのグループ発表の準備をさせた。
- 3 各班による地球環境問題についての発表。（画像を使わないプレゼン）
- 4 環境問題のグループ発表を終え、前期期末考査（2学期制）後の10月に、「教師の環境問題プレゼン」という位置づけで下記の授業を実施した。

【授業1時間目】すべてパワーポイントを使って説明しつつ授業を進めた。

- A よく見ておくよう指示した後、洗剤の30秒CMを流した。（意図は伏せておく）
- B 油クイズ
- 1 自分の知っている食用植物油を用紙に書かせた。
（「食用植物油」というと、まず「天ぷら油」「サラダ油」など使用目的で分けた名前が出てくる（初めにそれはダメと言ってある）。
 - 2 日本で消費量の多いもの（本当は「供給量」が正しい）を挙げさせた。
（ごま油・菜種油・大豆油・オリーブ油などが多かった）
 - 3 日本の食用油脂のデータを示しながら、第3位のパーム油について自分は日常生活でよく使っているか、選択肢の中から選ばせた。
（「4 ほとんど使っていない」が多かった）。
- C パーム油について説明
- 1 「見えない油」であること。たいてい「植物油脂」として登場。
 - 2 即席麺・アイス・チョコ・ポテトチップスの包装紙の原材料名の記載を見せて、「植物油脂」の語を確認。（①②）
 - 3 家庭での食品はもちろん、外食産業などでパーム油がどれほど多く用いられているかを説明。
 - 4 「見えない油・パーム油」に関するビデオ（3分）を見せる。
- D アブラヤシについて
- 1 パーム油がアブラヤシという植物の果実を搾取することに触れ、アブラヤシの果実を見たことがあるかを問うた。（ほとんどが「知らない」という）
 - 2 再度、洗剤の30秒CMを見せ、CMの中に何度も出てくるアブラヤシの果実を知らしめた。
 - 3 アブラヤシの木・果実などを現地で撮った写真を見せながら説明。（③④⑤⑥）
- E 再度パーム油について
- 1 パーム油は世界中でよく使われている油であることを説明。2005年度には生産量が世界第一位になった事実にも言及。
 - 2 パーム油の長所を説明。生産者の立場から。消費者の立場から。
 - 3 日本でもパーム油に関する研究が進んでいる事実
 - 4 パーム油を使った洗剤のCMを繰り返し見せ、企業の意図や各自の印象についてまとめさせた。（ほとんど者がパーム油に好印象を持った）

5 宿題：「植物油脂」または「パーム油」と記載のある商品を探して報告。

【授業2時間目】すべてパワーポイントを使って説明しつつ授業を進めた。

F 洗剤のCMについて ⑦

- 1 前の授業での生徒の感想を紹介。概ね好印象であったことなど。
- 2 生徒の感想の中にあつた疑問点を紹介。
 - ・長所があるなら、どこかに短所もあるはず。など
- 3 このCMに環境団体などからクレームが付いた話をし、どこが問題になったのか、自分で見つけるよう指示した。(何回かCMを見せたが、「わからない」が多かった)
- 4 「地球・環境フォーラム」など8団体14個人が連名で出した要望書の説明。
- 5 「依然として、原産地において環境・社会問題が生じている」という文言に着目させ、我々日本の消費者の気付かないところで問題が起こっている事実を説明した。
- 6 8月頃から、問題の箇所を修正したCM第2弾が出ているので、そのCMも見せどこが変わったかを考えさせた。

G アブラヤシプランテーションをめぐる環境問題・社会問題について

下記の問題について、ビデオや写真を見せながら説明していった。

- 1 環境問題
 - ・ボルネオ島原生林の不法伐採 ⑧⑨⑩
(森林の消失・植物多様性の減少などの問題)
 - ・単一大規模栽培による病害虫の発生、農薬による土壤汚染。
廃油等による水質汚染。⑪
- 2 社会問題
 - ・先住民との土地をめぐる争い。
 - ・劣悪な労働条件(低賃金・農薬被害・児童労働など)

H 対策についての話(ビデオなどを見せながら)

- 1 RSPO(持続可能なパームオイルのための円卓会議)⑫
- 2 ボルネオ保全トラスト

I 「生徒に望むこと」と称してまとめを行った。

前回、パーム油について「上げ」て、今回急に「落とし」たので、その落差に驚きパーム油をすべて「悪者」と決めつける生徒が出るのには抵抗があつたので、

- 1 CMなどのイメージに流されて物を見ないこと
(逆に、まだまだ問題が多く残っているものの、「パーム油を一切使うべきでない」などと短絡的に考えないことも付け加えた。)
- 2 光の後ろに隠れた陰の部分で自分で確かめる態度を養うこと
- 3 今、自分ができることを考えて実行すること

7 授業の感想(生徒)

- マレーシアだからといって他人事と思つてはいけないと思つた。現に日本もマレーシアからパーム油を多く輸入しているし、自分達の身近なところでパーム油が使われているので複雑な気持ちになつた。最初、パーム油は便利で環境にやさしくとても良いものだなあと思つていたけど、今はどちらとも言えない。まず自分達に出来ることは、無駄をなくすことだと思う。パーム油自体は悪いものではなくそれを使つている人が悪いんだと思う。この2時間は自分自身にとって、すごく勉強になつたし、ためになつた。物事には長所もあるけど短所もあるので気をつけないといけないと思つた。
- 1回目の授業で、パーム油はすごい油だと思いましたが、2回目の授業でパーム油の落とし穴

を知って少なからず落胆しました。でも僕はパーム油を悪いとは思いません。パーム油を悪いようにさせるのは僕たち人間であり、よくさせるのも人間です。僕たちはこれから、ビデオで言っていたように、無駄を減らして地球環境に目を向けることが大切だと思います。

- 最初の授業の方でパーム油の良い点を聞いて持った印象と、次の授業で持った印象が大分違っていました。パーム油の原料となるアブラヤシのプランテーションを作るための森林伐採によって、いなくなってしまった生き物たちや、何も知らないで低賃金で働いている人たちのことがとても気の毒に思いました。まだ詳しい知識を持っていないので、調べたりしたいと思います。

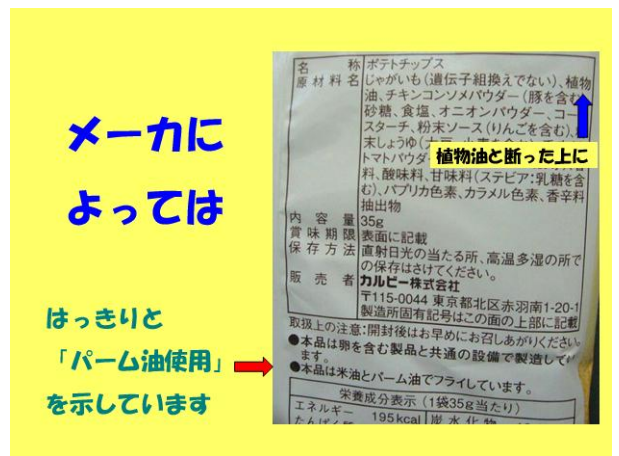
8 授業の感想（教師）

授業をやりながら、当初の目的は果たせたと思うが、パーム油の問題点をめぐって複雑な気持ちになった。個々の問題点についての勉強が足りないことへの焦りと、自分のスタンスが定まらないことへの苛立ちがあったのだ。アブラヤシプランテーションの問題点を挙げ批判するのはたやすいが、それで外貨を稼ぐ現地の人々に対して、では自分は何ができるのか、自分は生徒に何をさせようとしているのかと自問してみると、決定打とも言うべき答えが出てこない。ただ、今後もRSPOやボルネオ保全トラストなどの活動を見守っていきたいと思う。また、「見えない油」パーム油について、「植物油脂」とされている食品のうちどの程度の割合でパーム油が使われているのか、なぜ「パーム油」と表示しない製品が多いのか、なども今後調査研究していきたい。

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫

